

1 人口減少の現状

● 人口減少の現状

- ・平成19(2007)年に約187万人だった本県の人口は、令和22(2040)年には約150万人程度に減少する見込み。
- ・令和5年4月に公表された将来人口推計(全国)によると、平均寿命の延伸と外国人の入国超過増により、全体の人口減少スピードはわずかに緩むものの、0～14歳人口は前回(平成29(2017)年)推計より、減少幅が拡大。
- ※ 本県も同様の傾向と仮定すると、2040年の推計人口は約153万人となる見込み。

● これまでの取組の総括

- ・若者の転出超過等が課題と認識していたものの、集中的・効果的に取り組めていなかった。
- ・人口減少の要因に関する調査・分析が十分でなかった。
- ・国や市町、企業等を巻き込んで対策に取り組むべきであったが、連携が不足していた。

● 本県の強み

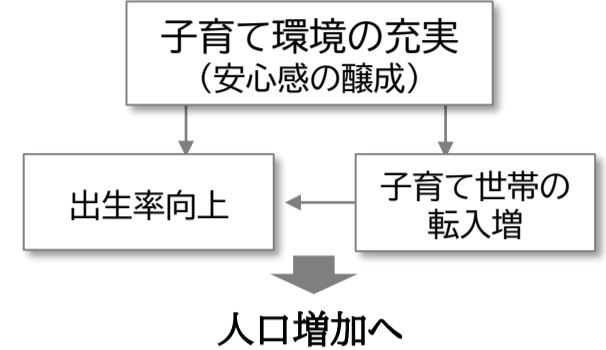
- ・名古屋・大阪の通勤圏内にある市町はベッドタウンとして転入者が増える可能性。
- ・豊かな観光資源。⇒交流人口
- ・県北中部に産業集積、南部に雄大な自然等。 など

● 本県の弱み

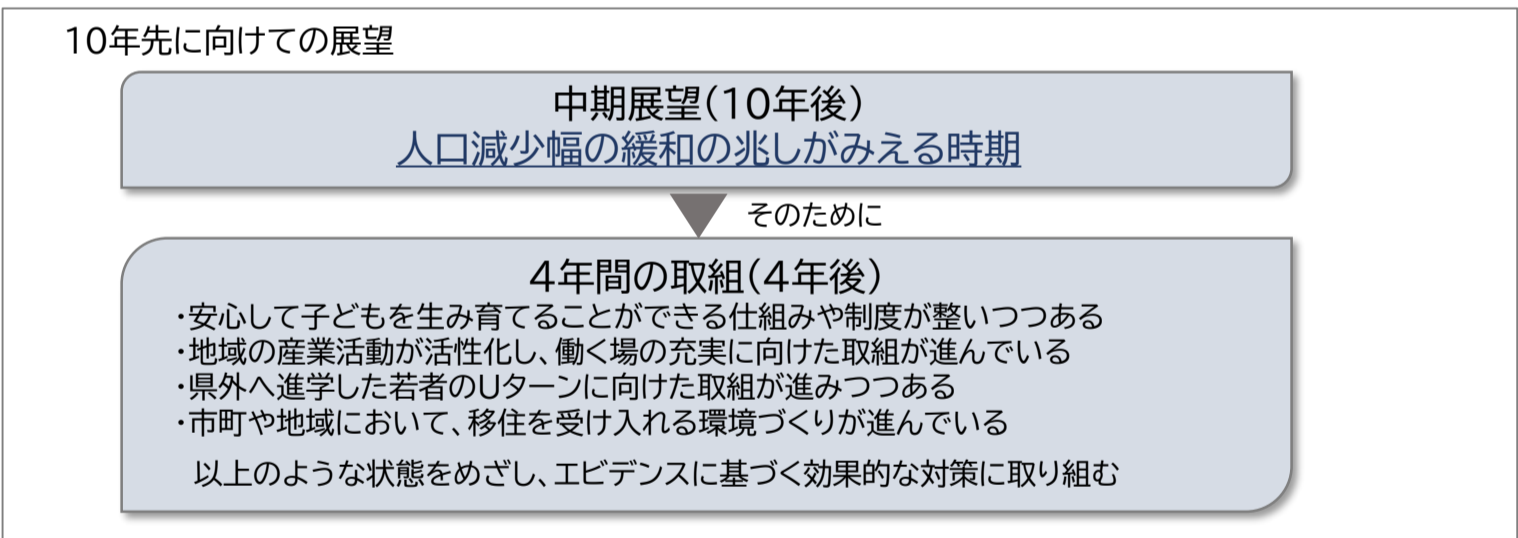
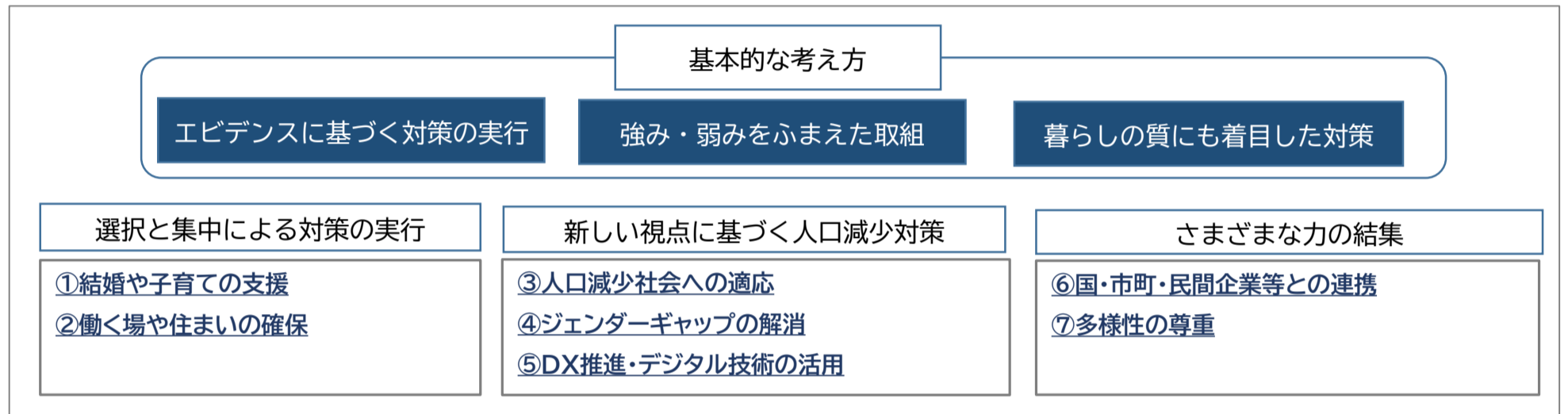
- ・南部は第一次産業が多く、比較的雇用吸収力が低い。
- ・北中部は大都市に比べ本社機能や産業の多様性に乏しい。
- ・地域公共交通の利便性、商業施設・文化施設の面で劣る。 など

先進的な取組事例

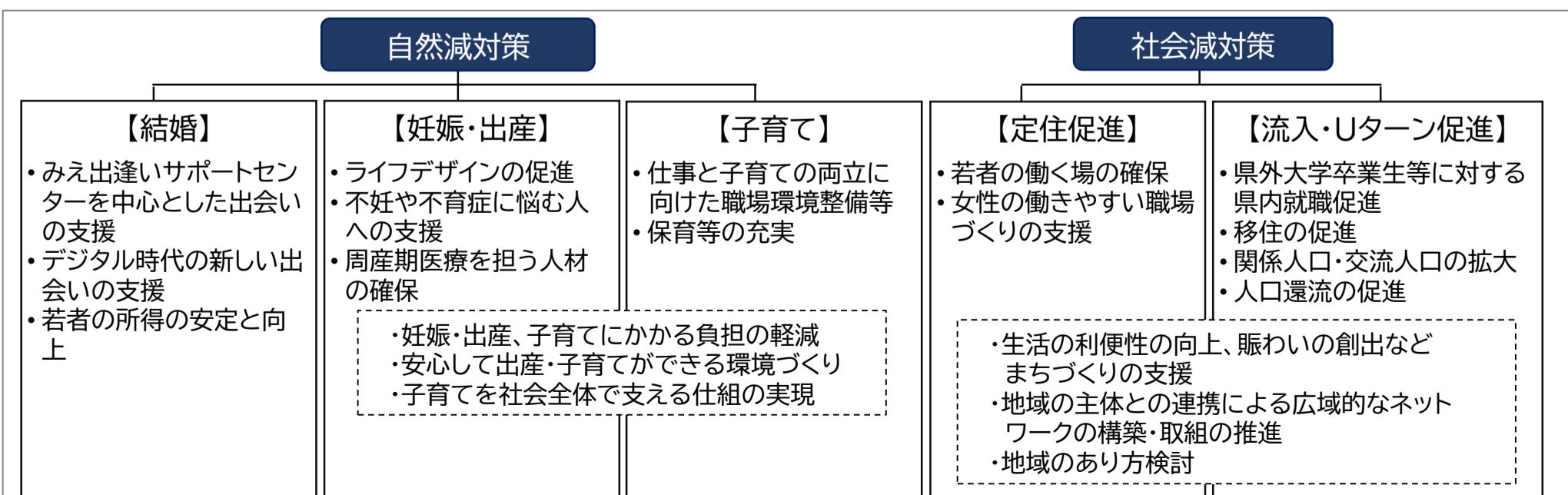
(流山市、明石市、奈義町から得られた知見)



2 人口減少対策の基本的事項



3 人口減少対策の具体的な取組方向



※ 対策として実施する主な取組については、KPIを設定する

人口減少対策に関連する取組

防災・減災、医療・介護、教育・人づくり、公共交通、産業振興、共生社会に向けた取組